

14. 「コミュニティプラザ☆ぷらっと」

(陸別町・陸別町商工会)

～安全・安心な生活環境づくりのため、不足業種を補完した複合施設をオープン～

■ 商店街再生に向けて

人口減少などによる経営難で商店街の商店数は年々減少、空き店舗の増加や後継者不在の高齢経営者も多い。とりわけ食料品店は平成14年の7店舗から2店舗へと大幅に減少し、生活を支える、本来の商店街機能を十分果たせない状況に至っていた。

平成25年に国の補助金を活用し、空き店舗を活用したコミュニティ施設「つどえる」を開設し、地元野菜や物産品の販売、キッズスペースの設置など1ヶ月にわたる実験事業を実施したところ、期間中の入場者は1,800人にのぼり、賑わい創出の効果が実証されるとともに、通年実施への要望が相次いだ。また、同時期に住民ニーズを把握するためのアンケート調査により、薬局が必要、若者が集まれる場所や気軽に休める場所がほしいとの要望が多く寄せられた。

これらを踏まえ、商工会自らが運営主体となり、国の補助や町の支援を受け、「不足業種を誘致」し、「町民に安心安全な生活環境を与え、誰もが気軽に休めるコミュニティの場」をコンセプトとした、複合施設「ぷらっと」を平成27年7月にオープンさせることとなった。



■ 不足業種誘致、町外からの出店者で活気

1階には要望の多かった薬局、整骨院、2階に居酒屋、寿司屋の4店舗がテナントとして入居。1階の共用部分は商工会が運営するコミュニティカフェで休憩所・情報コーナー・キッズスペース、レンタルボックス、地元産品販売所を設置。

コミュニティカフェで定期的に行われるワンデイシェフは、連日好評で多くの賑わいを創出しているほか、整骨院においても当初想定以上の利用があり、急遽、予約制にしたほどだ。

また、薬局、寿司屋、整骨院の経営者は、町外からの移住者であり、いずれも30～40代の若年者で家族や従業員を含めると、10人もの人口増となった。



コミュニティカフェ

■ 地域に愛される施設を目指して

「駐車場で地元のとれた野菜を販売したい」「SNSでワンデイシェフ等の情報を発信していきたい」など、小野経営指導員は今後を見据えたアイデアをもっている。

また、将来的には、買い物バスを走らせ、遠くから高齢者等呼び込む、買い物弱者支援の取組も検討していく予定。

照会先
(運営主体等)

■陸別町商工会
陸別町字陸別原野基地 69 番地 1
TEL 0156-27-3161
HP (<http://www.shibare.or.jp/>)